

分割育苗法によるサトイモ優良種苗生産技術

農業研究部

1. 研究の背景

サトイモは種イモで繁殖し、その形質は次世代に引き継がれるため、丸い形状で収量性のよい種イモを残す必要がある。しかし、生産現場では販売後の残ったイモから種イモを選別して植付けている場合が多く、次第にイモの形状は劣悪化し、収量性も低下していく。そこで、優良種イモから効率よく、イモを増殖する分割育苗法を検討した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

分割育苗法において、切片重10 gに分割することで充実した苗が得られるが、以下の処理を実施すると、増殖率が高い切片重5 g苗の苗質を切片重10 g苗と同等以上にすることが可能となる。

(高い増殖率を求める場合)

- ①分割処理前に種イモを27℃恒温条件に7日間設置する。
- ②種イモの副芽を残し、セルトレイの深さに合わせて種イモの下部を切り落とす。
- ③種イモを5 g切片に分割する。
- ④トレイあたり窒素成分3 gを基肥施肥又は追肥した50穴セルトレイに定植し、24日間25℃恒温条件で加温する。
- ⑤④の後、ハウス内のトンネルで40日間育苗する。



現地実証試験において、優良種苗の増殖率は15.0倍となり、さらに分割育苗苗から得られた種イモを定植することで1.6 t/10a（慣行の1.7倍）の収量が得られた。

以上のことから、分割育苗苗を用いることで収量の向上が期待できる。

3. 期待される効果

- ・優良種苗の効率的な増殖
- ・優良種苗の定植による収量向上

4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター農業研究部 葉根菜類・茶業チーム
住所: 豊後大野市三重町赤嶺2328-8 TEL: 0974-28-2082